

政略結婚が必要

—日本外交の現状をどう見ますか。

「小泉首相は料亭に入り浸ったりせず、音楽を聴いたり本を読んだりして一人ですごす。先進社会の市民感覚でやっている人で、欧米との付き合いはできる」

「アジアの場合、過去の歴史がある。突き放すだけでなく、濃密な付き合いもしないといけない。丁寧に気持ちの繋ぎを、まてなで信頼関係を築いていく必要がある。我々の不徳に発する問題であることを忘れるべきでない。歴代首相は『大要失礼した』と言ってきた。無用の刺激を回避して前向きな協力をし

2006年の 選択

▼5

日本外交の進路

ていくためには必要だ。首相は「いつまでも歴史の既得権にしがみつくな。ぶっかわしてやる」という気分なのだろうか」

「首相が志向する対米重視と中国との友好は両立できますか。」
「米国は両立させている。日米もよいが、米中

関係は史上最高。東シナ海や太平洋での安保の対抗関係を横目で見ながら、プッシュ大統領と胡相はアジアとのよい関係を築き、米国とのよい関係を築き、米中関係を改善させたい。日本がアジアで重きを置かれる国であれば、同盟

関係は史上最高。東シナ海や太平洋での安保の対抗関係を横目で見ながら、プッシュ大統領と胡相はアジアとのよい関係を築き、米国とのよい関係を築き、米中関係を改善させたい。日本がアジアで重きを置かれる国であれば、同盟

アジアと改善が国益



神戸大教授 五百旗頭 真氏(62)

「十一月の日米首脳会議の際、小泉首相は『日米がよければよいほど中韓ともよい関係を築ける』と主張しました。『言葉としては正しい。日本がアジアで重きを置かれる国であれば、同盟

比日本がよいことは分かっていても、政治的な理由で日本に発注できない。靖国神社に代わる場場合には、それを改めるのが国政を担う者の責務だ。日本は国際的な役割を担うべきで、外見よりも重要な手さばきでこれを進めてきた。〇六年九月からの次の政権にとっても、国のあり方にかかわる重要問題となる。その成否が、翻って小泉外交の評価にも影響する」となる(おわり)

際関係に恋愛結婚はなない。大きな国益を考えた政略結婚だ」

「小泉首相の問題は米国のよい関係を活用してアジアとのよい関係をつくらうとしているかどうかだ」

「日中も経済関係は良好であり、問題はないとの見方もあります。靖国問題が解決すれば日中はうまくいくのか

聞き手から

小泉純一郎首相は自民党総裁としての任期が満了する来年九月で退任する意向を表明しており、来年は五年ぶりに「政権交代の年」となる。ポスト小泉を巡り有力候補の間では消費税率引き上げ法案をいつ国会に提出するかなど早くも活発な論戦が展開されている。

ポスト小泉に影響も

向としてはいずれも「小さな政府」を志向。違いはそれほど大きくはない。日中関係の行方次第では、外交政策がより重要な争点になる可能性は十分ある。内政と異なり、相手国のある外交は思い通りにならないことも多い。「国益」に沿って判断すべきだ、との指摘は重い。(編集委員 大石格)

「靖国神社に代わる場場合には、それを改めるのが国政を担う者の責務だ。日本は国際的な役割を担うべきで、外見よりも重要な手さばきでこれを進めてきた。〇六年九月からの次の政権にとっても、国のあり方にかかわる重要問題となる。その成否が、翻って小泉外交の評価にも影響する」となる(おわり)